



業務実績書 個 表 (診断記録1)

記載例

番号	2	調査年月	平成14年9月〇日	調査者	名前 〇夫	
樹種名	スギ		調査者の所属	〇〇〇〇		
学名	Cryptmeria japonica		樹木の名称(愛称)	〇〇〇〇杉		
所在地	岐阜県〇〇市△△町 〇〇神社					
所在地・樹木に対する保護制度	〇〇市指定天然記念物					
管理者及び所有者	〇〇神社氏子総代 〇〇 〇男 〇〇神社					
過去の治療歴	昭和51年に堆肥と化成肥料を全面散布。その後は根元の清掃程度。					
管理状況	自然林と同様に取り扱う。御神木として敬い状況は良い。					
生育環境の概況	立地場所	社殿裏側の緩斜面				
	周囲の状況(工作物)	御神木「スギ」の斜面上部に〇〇道の擁壁が横断している。				
	日照条件	東西の開空度120度で良好。	土地の傾斜	7度		
	土壌断面図		土壌条件(土性、構造、土色、水分状況、石礫、根系、硬度など)			
	I層		I層	黒色 埴質壤土 乾～潤	石礫無し 細根多 やや堅	
	II層		II層	黒色 埴質壤土 潤	石礫無し 中根有り 堅	
	III層		III層	褐色 埴土 潤	大角礫有り 中根有り 堅	
	周辺の地形・地質	山脚の緩斜面に位置し、広葉樹林に連なる。 安山岩				
根元等の植生	コアジサイ、チゴユリが点在する程度					
その他	〇〇道は、斜面上部から移動する地表流・中間流を阻害している。					
形状寸法	樹高	28m	主幹胸高	直径	100cm	
	株立の場合の幹数及び直径	Φ10cm以上の本数		幹周	300cm	
		Φ10cm以上の幹の直径	cm	cm	cm	cm
	枝下高	5 m	根元径	150cm		
			根元幹周	450 cm		
	枝張り	E 4m × W 4m × S 5 m × N 3 m				
根元の状態(深植、根上がり、踏圧等)	祭事の折の踏圧があるが、ルートカラーは健全。					

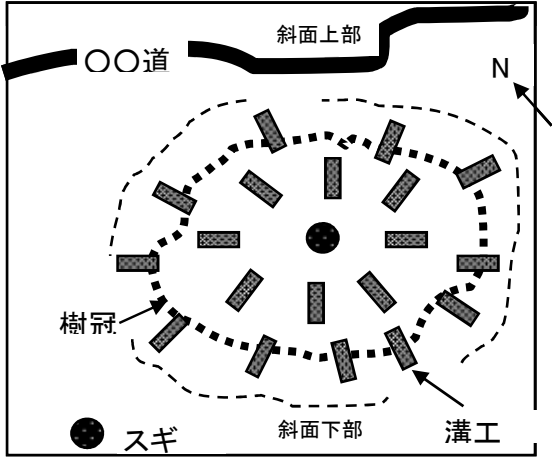
- 業務実績書の事例の中から2件を抽出して作成すること。
- 必要のない項目については記載を省略できる。
- 診断の内容が分かるものであれば、他の様式に代えることができる。
- 業務実績が治療のみの場合も添付すること。

## 業務実績書個表(診断記録2)

記載例

番号		2		
項目	健全度	部位ごとの観察・診断の結果 (観察項目として病虫害・獣害・材質腐朽・気象害・生理障害・樹形など)	特記事項	
観察部位	葉	3	樹冠上部葉は褐変。葉は枝に団塊状に着いて透いている。下部葉は異常はない。水ストレスによるもので病虫害などは認められない。	2年前の夏から急変
	枝	2	樹冠上部の中枝が枯死している。水ストレスである。下部に古い太い枯死枝がある。	下部枝葉には除雪車による雪害がある。
	幹	0	異常はない。	1年中締め縄がついている。
	根 (根元を含む)	1	土壌浸食で細根の露出が目立つ。根張りは健全。	
	その他 ( )			
	総合評価	2	水ストレスで樹冠上部の枝葉の枯死が進行している。樹形は自然樹形を保っている。	
※健全度		0 良好 1 やや不良 2 不良 3 著しく不良 4 枯死寸前		
総合的な所見 (生育環境、部位の観察・診断結果をふまえて現況や原因などについて総合的な所見を記載)	<p>①樹冠上部の枝葉が被害大で、下部(1/2)の枝葉は葉色・葉量とも普通。</p> <p>②下層植生が貧弱である。</p> <p>③表土の構造が乾燥型で堅い。</p> <p>④地表が樹冠雨滴で侵食され目詰まりし、かつ、細根が所々露出している。</p> <p>以上のことから、斜面上部からの地表、中間水が阻害されやすい。</p> <p>気象データの解析からも、過去3年の夏が少雨であった。</p> <p>よって、このスギは水ストレスが老化現象を促進させたものと判定した。</p>			
取るべき 対策・対処	<p>水ストレスの対策として、</p> <p>①土壌の保水能力と地表からの浸透能力を高める。</p> <p>②地表からの蒸発量を抑制すること。吸収根の露出を処理し、細根の活力を促進すること。</p> <p>このため、溝状(以下溝工という)に土壌を膨軟に改良し、かつ、全面を有機物でマルチングする。</p> <p>また、黒色土の欠点を補完するため、堆肥の施用とリン酸の効能を高め土壌の化学性・物理性を改良する。</p>			
特記事項	<p>土壌改良は継続することが効果的</p> <p>①3年連続の表面ばら撒きの施肥</p> <p>②マルチングの敷設材料は、カヤ・ワラ・堆肥など年ごとに变化させた方がよい。</p>			

番号	2	〇〇市指定天然記念物御神木「〇〇スギ」の樹勢回復
診断者	〇〇 〇夫	共同実施者 〇〇 〇司
治療の事業主体	〇〇神社氏子	
治療の実施者	〇〇 〇夫 〇〇〇〇が氏子30人を指導して実施。 立会い者 藪田市役所 〇〇〇雄	
(現場主任者)	〇〇 〇夫 〇〇〇〇	
治療期間	平成14年 9月から 平成14年9月 まで	
具体的処置・方法等	<p>1、溝工による土壌改良                  樹冠下周辺に長さ2m、深さ40cm、幅50cmを目標とする溝を掘り、堆肥と肥料を混合し埋め戻す。                  (ただし、根系の状態によって位置および大きさは変更する。)</p> <p>①〇〇バーク堆肥 土量の1/3程度。 ②緩効性〇〇化成(10:10:10) 〇g /m<sup>2</sup>                  ③熔リン(0:0:20) 〇 〇g/m<sup>2</sup> ④癒合剤(根の切除部保護)</p> <p>2、全面施肥と細根露出部の処置                  全面に堆肥と施肥をばら撒き、細根露出部に土壌を散布する。</p> <p>①〇〇バーク堆肥 2Kg /m<sup>2</sup>                  ②緩効性〇〇化成(10:10:10) 〇g /m<sup>2</sup>                  ③熔リン(0:0:20) 〇 〇g/m<sup>2</sup>                  ④細根露出部に散布する土壌は周辺で確保</p> <p>3、全面マルチ                  ①ワラ 〇束/m<sup>2</sup></p>	
処置後の結果	<p>2年間は小康状態であったが、5年目に入り葉色、葉量は回復してきた。また、表土は膨軟化し保護されるようになった。</p>	



注1. 業務実績書の事例の中から2件を抽出して作成すること。  
 2. 業務実績が診断のみの場合は、その後の経過を記載すること。  
 3. 業務実績が研究の場合は、処置後の結果欄を研究成果と読み替える。  
 4. 内容が分かるものであれば、任意の様式でもよい。